

# 1. 評価結果概要表

作成日平成 21年 7月 1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2971000415
法人名	有限会社すみれ
事業所名	グループホームてのひら
所在地	奈良県香芝市上中50-7 (電話) 0745-71-7501

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成21年6月25日

## 【情報提供票より】(21年 5月 31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 1月 21日
ユニット数	2 ユニット
職員数	19 人
利用定員数計	18 人
常勤	11人, 非常勤 8人, 常勤換算 7.3

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷金	有( 100,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1月	40,000 円		

### (4) 利用者の概要( 5月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 82.29 歳	最低	72 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	安田医院、東朋香芝病院、くらすか歯科医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、主要国道を少し入ったところに位置しており、周辺にはコンビニエンスストア、ガソリンスタンド、介護関係の事業所があります。愛らしい動物の石造が訪問者を迎え、明るく広いエントランスは、ギャラリーとなっています。ウッドデッキとそれに続く菜園の緑をはさんで、二つのユニットがあります。リビングには、天窓から自然光が入り、職員と入居者合作の作品が壁を飾っています。医療連携体制も取り入れたケア計画の下、「幸せって感じられる日を一緒に過ごしたい」という熱い志の職員と共に、入居者は、それぞれマイペースで、ゆったりとした日々を送られています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での改善課題については、管理者と職員で検討し、外部向けの広報紙「てのひら便り」の発行、近隣の保育所の運動会を見学するなど、具体的な改善に取り組まれています。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価には、職員も参加し、課題を提起してサービスの質の向上に努力されています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議では、入居者の状況やサービスの状況を報告し、ボランティアの活用を提案されたり、家族からケアについての意見が出され、出された意見は、サービスの改善に反映されています。なお、運営推進会議の意義や役割を十分理解され、地域住民の参加が得られるよう、積極的な働きかけを期待します。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	御意見箱を設置し、入居時には、「意見・苦情受付」について書面と口頭で家族に説明するなど、必要に応じて意見を外部者に表せるようにされています。また、出された意見は、運営に活かす取り組みをされています。なお、サービスの質の確保・向上のためには家族の意見、不満、苦情等を前向きに活かす姿勢や体制づくりが望まれますので、職員との馴染みの関係づくりをはじめ、家族が意見を気軽に伝えられるような雰囲気づくりや場面を積極的に作られることを期待します。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	近隣の保育所の運動会を見学したり、地域のボランティアによる腹話術や楽器演奏等の訪問があるなど、地域との交流の機会を持たれていますが、今後は、ともに暮らす地域住民の一員として、自治会への加入等、地域で必要とされる活動や役割を担っていく努力が期待されます。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム設立以来のモットー「幸せって感じられる日と一緒に過ごしたい」を掲げられていますが、「地域の中でその人らしく生活することを支えるケア」の具体的なイメージを取込んだ理念づくりはされていません。	○	管理者・職員の協力の下、地域密着型サービスとしての理念の意義を十分検討し、作成されるよう期待します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時やミーティングなどの機会を活用して、理念の共有化の努力をされています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の保育所の運動会を見学したり、地域のボランティアによる腹話術や楽器演奏等の訪問があるなど、地域との交流の機会を持たれています。	○	今後は、ともに暮らす地域住民の一員として、自治会への加入等、地域で必要とされる活動や役割を担っていく努力が期待されます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の改善課題を、管理者と職員で検討し、外部向けの広報紙「てのひら便り」の発行、近隣の保育所の運動会を見学するなど、具体的な改善に取り組まれています。自己評価には、職員も参加し、課題を提起してサービスの質の向上に努力されています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、市の担当者、管理者、事務長、学識経験者、家族の参加を得て開催されています。会議では、入居者の状況やサービスの状況を報告し、ボランティアの活用を提案されたり、家族からケアについての意見が出され、出された意見は、サービスの改善に反映されています。	○	運営推進会議の意義や役割を十分理解され、地域住民の参加が得られるよう、積極的な働きかけを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部向け広報紙「てのひら便り」を発行し、届けられています。また、入居者の相談、連絡など、市の担当者との連携を密にした関係づくりに努力されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族に向けて「てのひら通信」を発行し、ホームでの出来事や生活ぶりを知らせるとともに、個別の状態や検査結果、薬の明細などを記入した「状態報告書」も一緒に送付されています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を設置し、入居時には、「意見・苦情受付」について書面と口頭で家族に説明するなど、必要に応じて意見を外部者に表せるようにされています。出された意見は、運営に活かす取り組みをされています。	○	サービスの質の確保・向上のためには家族の意見、不満、苦情等を前向きに活かす姿勢や体制づくりが望まれますので、職員との馴染みの関係づくりをはじめ、家族が意見等を気軽に伝えられるような雰囲気づくりや場面を積極的に作られることを期待します。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はなく、離職の場合は、入居者へのダメージを防ぐためあえて告げず、新入職員が入る場合は、当面、2人体制の勤務を組むなど、早く馴染めるような指導援助をされています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には、各シフトに指導者をつけて、経験しながら育てる工夫をし、また、外部研修の機会を確保する他、参加出来ない職員には月1回の会議での伝達研修・内部研修の機会を持たれています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が交流の経験を持たれています。	○	ホームの質の確保のためには、他法人の同業者との交流や連携が不可欠ですので、管理者だけでなく、職員同士の交流や相互訪問で、それぞれの取り組みを学びあう機会を持たれるよう期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には、職員が自宅を訪問して、本人と顔なじみになり、あるいはホームのお茶の時間帯にホームへ来てもらうなど、馴染みながらの利用への取り組みをされています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩である入居者の経験・特技を職員が学び、ホームで育てたシンビジュームを皆で愛でるなど、入居者と喜怒哀楽を共有しながら、一緒に過ごす生活を大事にされています。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時にアセスメント表を家族にも記入してもらい、生活習慣や意向の把握に努め、入居後は、職員が「気づきノート」で、相互に入居者の気持ちや意向を共有するなどの取り組みをされています。また、把握が困難な場合は、情報をもとに、関係者で話し合い、本人本位に検討されています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>個々の入居者の状況に応じて、家族、医師、看護師、職員からの意見を収集したものを取り込んで、介護計画を作成されています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間に応じて見直しされる他、状態に変化がある場合や毎月会議を持ち、入居者の状態の把握とプランの見直しを行い、現状に即した介護計画を作成されています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診支援、入院時の洗濯も含めた支援、外出支援など、本人や家族の状況や要望に応じて、柔軟な支援をされています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は、提携医により、日常的な健康管理が行われています。また、従前からのかかりつけ医を受診する入居者には、現状の報告と医師の指示を受けるために、職員が家族とともに受診に同行するなど、適切な医療を受けられるよう支援されています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化における指針」を提携医・看護師・職員で共有されています。それに基づいて、意思確認書を作成し、家族に説明されています。また、これまでも終末期の介護に取り組まれています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を大切にした対応や言葉かけを心掛けるよう努力されています。個人情報については、事務室のロッカーに保管されています。	○	ホームとして入居者の尊厳の保持やプライバシー確保について指導されていますが、さらに入居者に対する言葉かけやトイレ介助時のドア等、日常的な確認と改善に向けた取り組みを期待します。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを尊重し、その日の体調や希望に沿った支援をされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ケータリングの食材やホームの菜園での収穫物を利用し、職員と入居者が一緒に調理されています。職員と入居者は同じものを摂り、会話しながら食事されています。食後は、片付けに参加される入居者もあります。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の習慣や希望に沿って、夜間入浴や付き合っでの入浴など柔軟な対応をされています。最低週2回は入浴することになっていますが、入居者の状態や希望に合わせて、毎日の入浴も可能です。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花づくり、野菜作り、廊下のモップかけ、買い物など、入居者一人ひとりの生活歴や力を活かし、張り合いや楽しさを感じる場面づくりを工夫し、支援されています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や入居者の体調に合わせて、散歩、ドライブ、買い物など外出支援をされています。	○	全体としての外出だけでなく、個々の入居者の希望に応じた日常的な外出の機会が持てるような工夫を期待します。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造や防犯の面から、玄関は施錠されています。	○	日中鍵をかけることによる弊害を認識され、ホームとして、鍵をかけないケアのあり方を検討し、地域住民に理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築くなど、入居者の安全面に配慮して自由な暮らしを支える取り組みを期待します。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練を年数回実施し、消防署の参加による訓練も行われています。また、隣接する介護事業者に災害時の協力も得られています。	○	災害時における、職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、日頃より地域との連携を図りながら、理解を求め、協力関係を形成されるよう期待します。また、食料や飲料水等、災害時の備蓄についても、早急に準備されることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量については、毎日のチェック表に記載されて、職員に共有化されています。また、入居者の状態に応じたカロリーや塩分の配慮もされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、リビングの壁の装飾などから、季節を体感できます。また、リビングは、天井から自然光が差し込み、廊下の窓からは洗濯物が見え、対面式のキッチンから食事の出来上がる様子が伝わるなど五感刺激への配慮がなされ、居心地よく過ごせる共用空間となっています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた整理ダンス、小机、椅子、ポータブルラジオが持ち込まれ、日記や家族の写真などを思い思いに配置するなど、入居者が居心地よく過ごせるよう工夫されています。		